

精密音響測深機
TDM-BII

取扱説明書



目次

目次	2
1. 機器の基本構成	3
使用前の充電	3
2. TDM-B II 基本操作ガイド	
3. 機器の装備	5
測量船に装備する場合	5
機器間の接続	6
4. 操作手順（記録紙の装填）	7
5. TDM-B II 操作メニュー階層図	9
6. 操作パネル	10
7. 操作部の機能説明	11
操作部ショートカットキー	11
バーチェックの方法	12
8. 印字情報	13
印字情報設定：マーク印字する場合に記録紙上にどのような情報を記述するかを設定します。	13
9. 本体の起動・運転	15
感度調整を自動から手動に変更したい場合	16
10. 参考	19
自動シフトと手動シフトについて	19
温度と水中音速（塩分濃度含む）	19
RS-232C出力	20
◇よくある質問、疑問点について◇	21

1. 機器の基本構成

機器の接続 充電 注意

標準構成および寸法・重量

項	機器名	寸法 (高さ X 幅 X 奥行き)	重量 (Kg)	数量	備考
1	記録器	391 × 257 × 147	7	1	バッテリー含まず
2	送受波器	φ120 × 50	4	1	ケーブル 10m 標準仕様
3	舷外パイプ	φ27 × 800		1	
4	舷側金具		4	1	
5	遠隔固定線		1	1	ケーブル 2m
6	充電器	60 × 110 × 188mm	1	1	

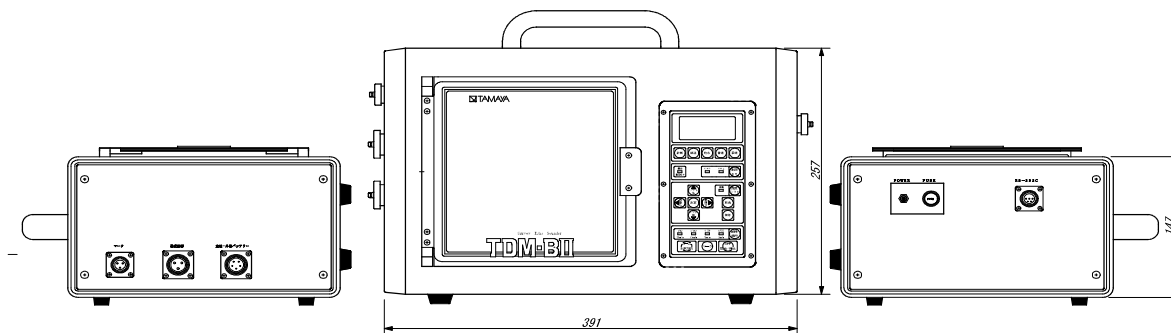
予備品内容

項	品名	規格	数量
1	ガラス管ヒューズ	3A	5
2	感熱記録紙		3

オプション

項	品名	規格	備考
1	電源ケーブル	ARB-009A	外部バッテリー接続用
2	パソコン接続ケーブル	ARS-009A2-*□□	RS-232C ケーブル
3	チェックバー	ARCB-009A20	20m ロープ付
4	感熱記録紙	TPC-451-1	1箱 10本
	*□□はケーブル長	*標準は 2m	

構成図



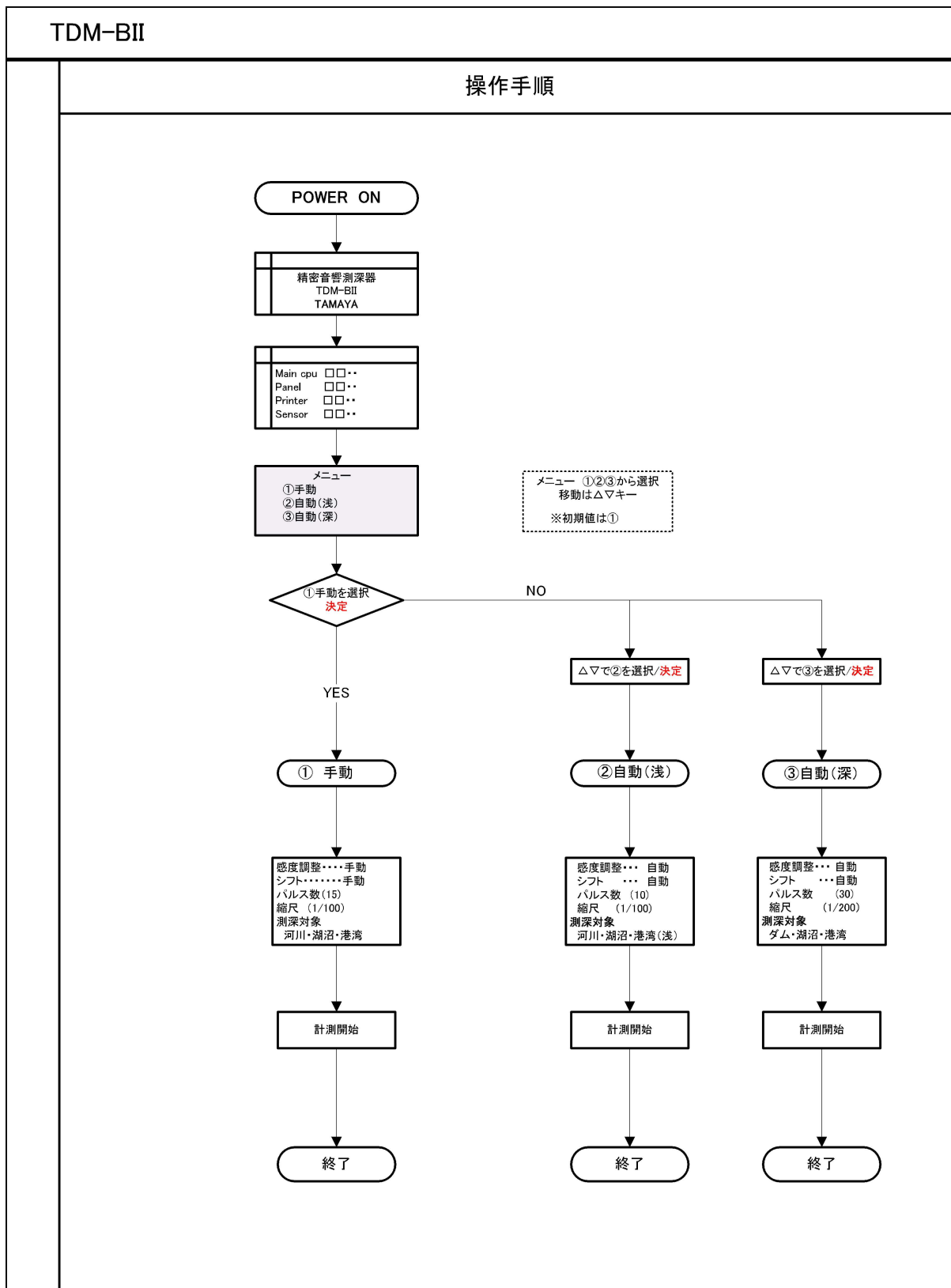
使用前の充電

充電については、ニッケル水素電池を採用しております、仕様上急速充電は行っておりません。

放電状態から 24 時間程度でフル充電となります。

24 時間を大幅に越えての充電はバッテリーを痛めますのでご注意ください。

充電完了の確認： 充電器のメータが 200mA 付近にあれば充電完了です。



メニュー画面 ①手動： 感度調整・・・手動 深度シフト・・・手動切替
メニュー画面 ②、③自動(浅)(深)：感度調整・・・自動 深度シフト・・・自動切替

3. 機器の装備

測量船にセンサを装備する場合

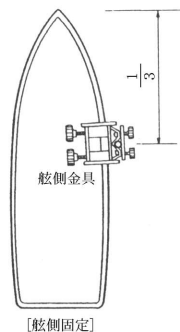
測量船に装備する場合

●本機は次のような場所を選んで設定してください。

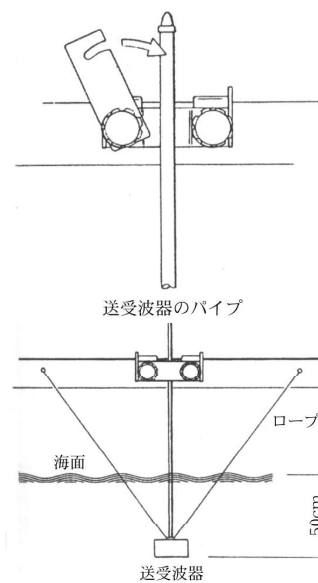
- ・ 海水の飛沫が直接かからない場所
- ・ 振動の少ない場所
- ・ 直射日光がなるべく当たらない場所
- ・ 船のエンジン設置箇所から離れた場所

1) 送受波器の取り付け

- ① 舷側金具を、船首より 1/3 の地点から船中央付近の間に固定します。
船首からの気泡の影響がもっとも少ない位置にセットしてください。

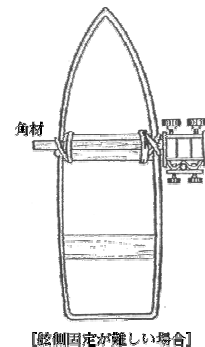


- ② 舷側金具に送受波器のパイプを取り付けます。



- ③ このとき、送受波器の底面が、走行中水面下 50cm 以深（通常は 50cm に設定）になるよう装備してください。また、送受波器が垂直に海底を向くよう、ロープで前後に引きます。

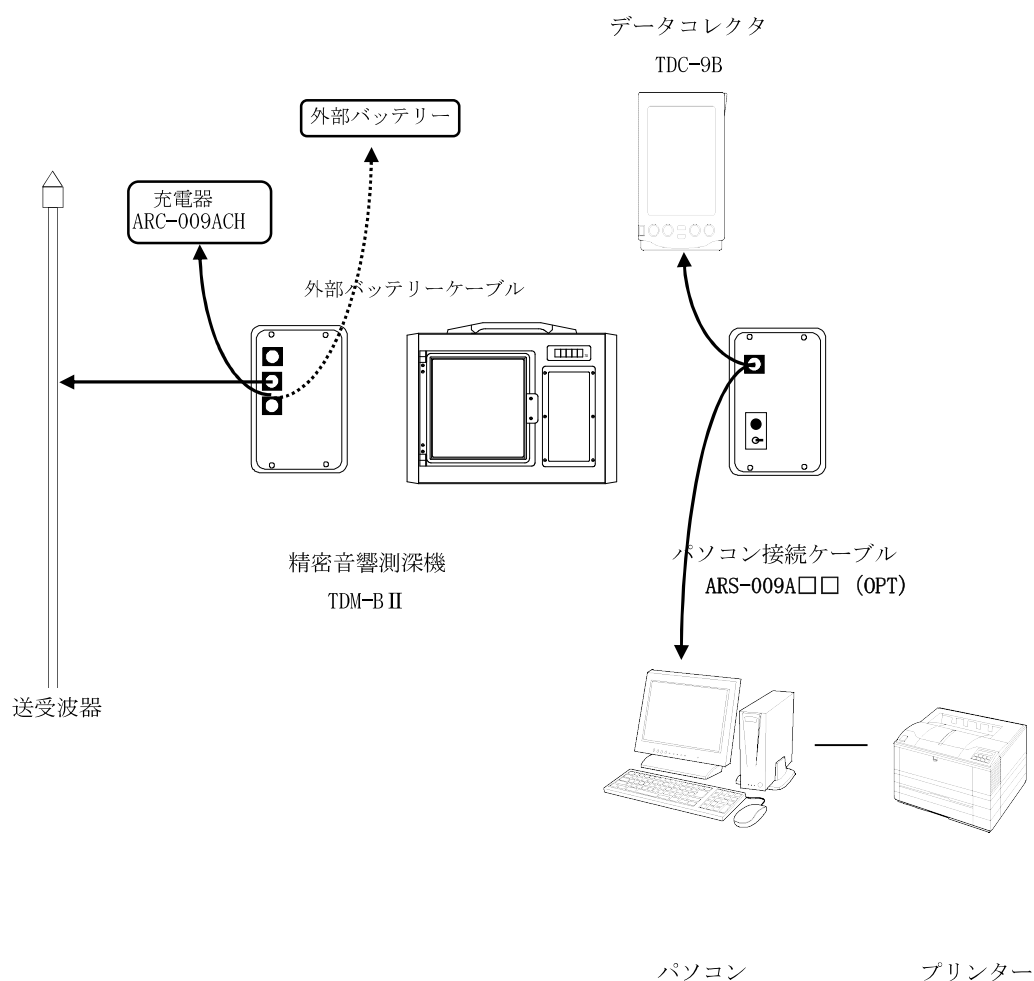
- ④ 舷側固定が難しい場合は、図のように角材を渡し、取り付けてください。



●取り付け場所は、次のようなところを選んでください。

- ・ 振動の少ないところ
- ・ ローリングやピッチングの少ないところ
- ・ 波浪や渦流による気泡の発生が少ないところ
(船の走行を横から見て、船首からの波が終わって、次の波が上る位置が一般的には最良の取り付け位置とされています)
- ・ 船内で使用している電子機器、エンジンなどから雑音を受ける場合がありますので、これらの機器から遠いところを選んでください。(特に船外機を使用の場合は要注意)

機器間の接続



●接続上の注意

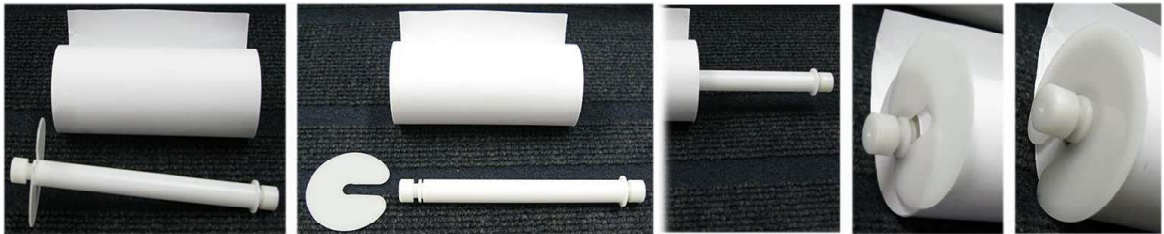
- ・ コンセントの極数にしたがって結線してください。
- ・ 送受波器のケーブルは、他の電子機器、およびその配線、船内電源線などに添わせて配線しないようにしてください(雑音の原因になります)

4. 操作手順 (記録紙の装填)

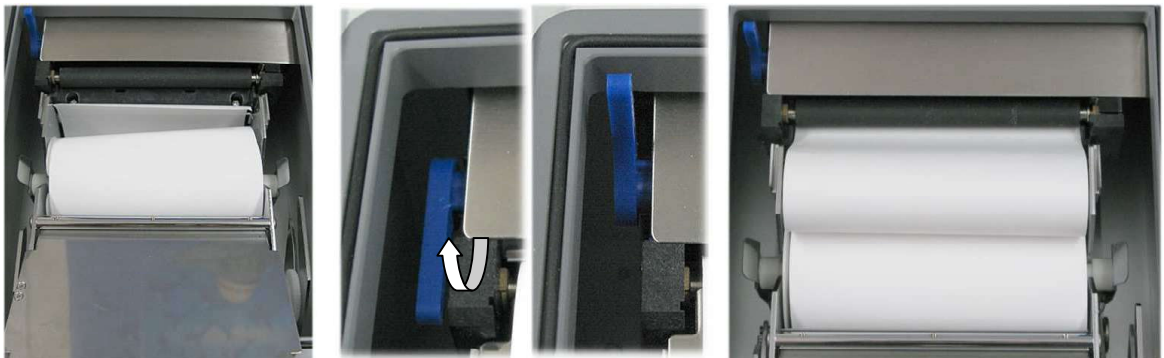
1. ドアを開き、金属製の記録紙ガイド板を手前に開きます。



2. 巻き芯スプールを取り出し、ツバを外して記録紙を装着し、ツバを元に戻します。



3. 巻き芯スプールを本体にセットして、リリースアームを上げ、記録紙をゴムローラーの下の隙間に挿入します。



4. ゴムローラーを手前に回して記録紙を巻き込み、上から記録紙が出てきたら、記録紙ガイド板を閉じて、記録紙を指でつまんで引き出します。



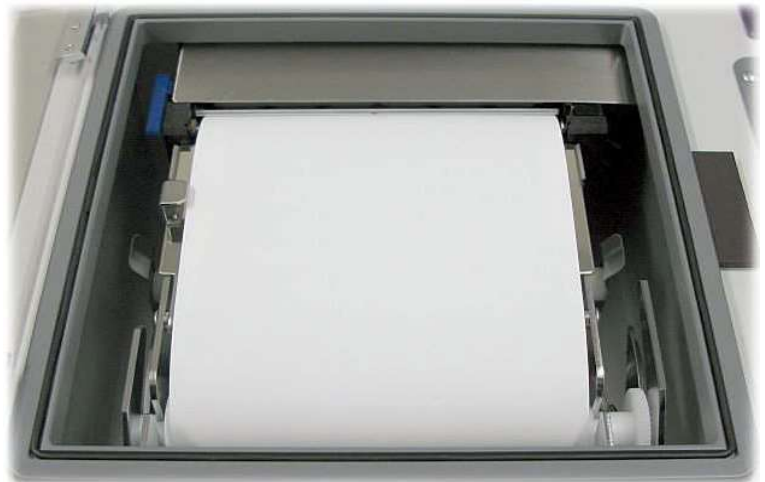
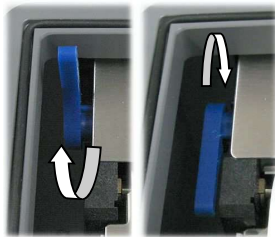
5. 巻き取りスプールアームを手前に引き上げ、巻き取りスプールを取り出して、記録紙クリップを外します。
(クリップがないときはセロファンテープなどで止めてください。)



6. 巻き取りスプールに記録紙を1周巻いて記録紙クリップで留め、巻き取りスプールを元の位置に戻し、巻き取りスプールアームを下げてから、さらに記録紙を2周程巻きます。



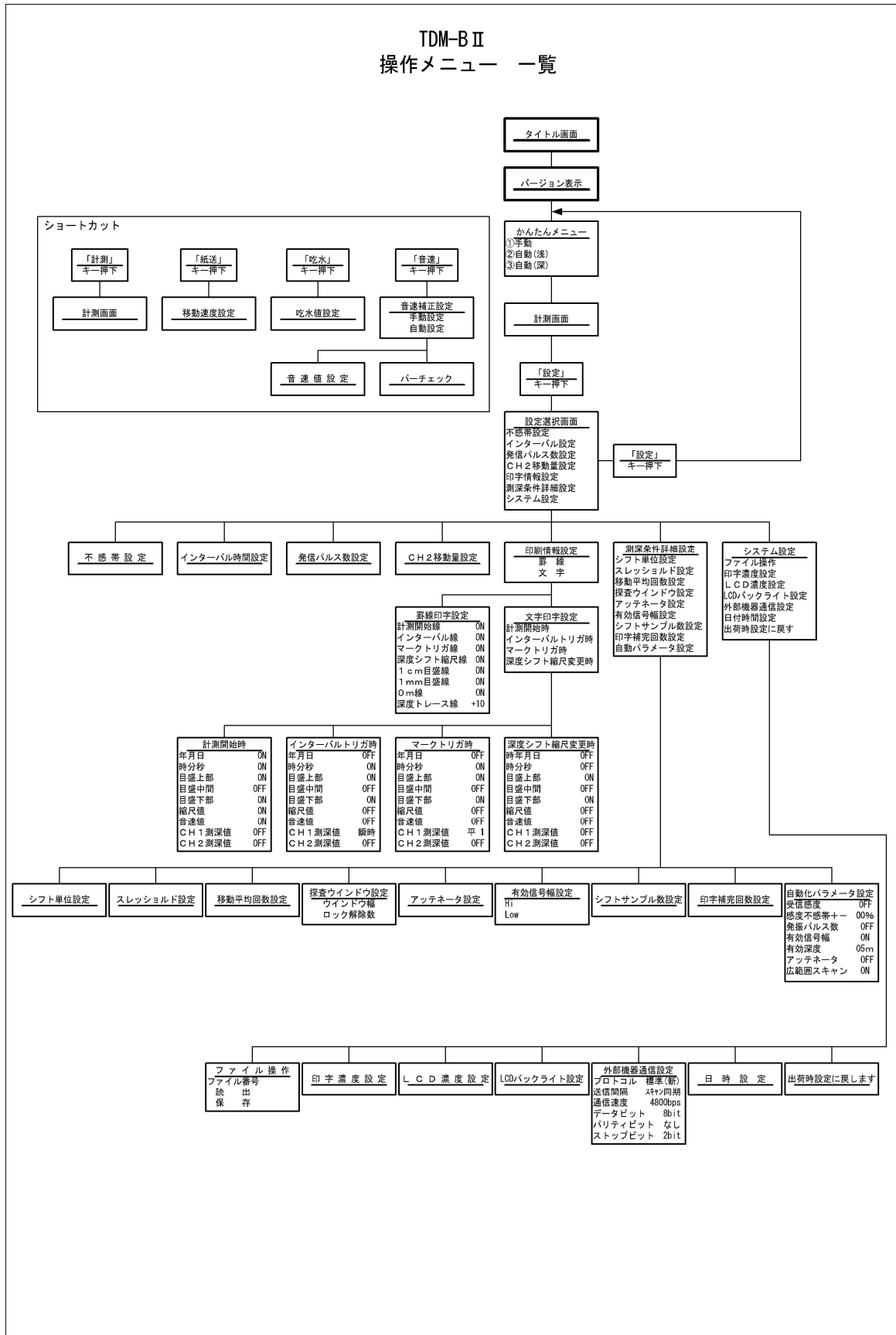
7. リリースアームを元の位置に戻して、記録紙の装填は完了です。

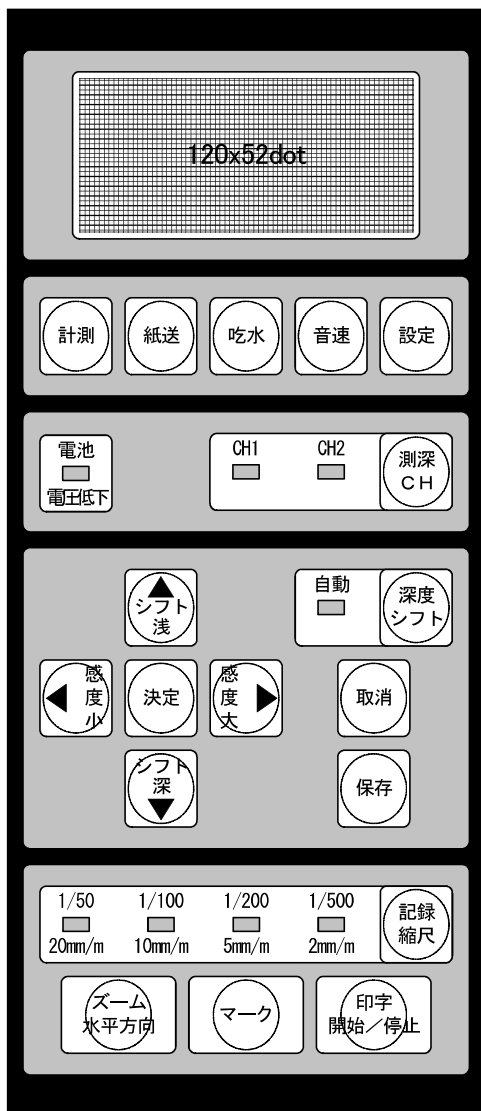


※主電源スイッチ（メインスイッチ：記録器右側面）をONにして記録紙を装填する場合の説明

- ① リリースアームはおろしたままで記録紙を挿入します。
一定の位置まで記録紙を挿入しますと紙を検知して自動的にモーターが作動し、記録紙を巻込みます
さらに、記録紙の送り出しが必要であれば **ズーム/水平方向** を押し続けると記録紙が送られてきます。
- ② 巻き取りスプールに 記録紙を巻き込みます。軸に固定する方法は 参考図 5,6 を参照ください。

5. TDM-B II 操作メニュー階層図





① LCD 表示部

② ショートカットキー

計測 紙送 吃水 音速 設定

③ 電池電圧低下モニタ

④ 測深 CH (CH1 のみ)

⑤ 操作キー

↓↑ 増減設定 ←→ 桁選択等

⑥ 深度シフト

LED 点灯：自動 LED消灯：手動

⑦ 取消

キーを押すと前の状態に戻ります。

⑧ 保存

設定変更を保存する場合に使用します。

⑨ 記録縮尺

キーを押すと順次変更されます。

⑩ ズーム・水平方向

キーを押すと早送りになります。

⑪ マーク

固定線が印字されます

⑫ 印字 開始/停止

記録紙に印字する場合使用します。

7. 操作部の機能説明

操作部ショートカットキー、バーチェックの方法

操作部ショートカットキー

- ・此のキーを操作することで、すべての項目の設定が可能です。

計測 **紙送** **吃水** **音速** **設定**

計測

- ・電源投入後計測画面がLCDに表示されます。

07/12/03 15:15:30 f 1
2.38 吃 0.5m
範: 000-010m 音: 1500m
送: 060mm P:15 感: 9

ファイル No.

初期設定値を表示(①手動の場合)

紙送

記録紙の移動速度を設定します。此の設定によって水平方向の縮尺を拡大、縮小できます。

設定値 15mm 30mm 45mm **60mm** 90mm 120mm 240mm 360mm

出荷時設定は **60mm**

変更手順

1. 紙送 キーを押します。移動速度画面に切り替わります。
2. ↑ ↓ キーで移動速度を選択し、**計測** キーで計測画面に戻ります。

紙送り切り替え中でも測深記録はその画面で確認できます。

吃水

送受波器を水中に沈める深度を設定します。

出荷時設定は **0.5m**

設定範囲 0.0~9.9m

変更手順

1. 吃水 キーを押して、吃水値入力画面に切り替わります
2. ↑ ↓ ← → キーで吃水位置を選択し、**計測** キーで計測画面に戻ります。

音速

測深時の音速値を設定します。音速を決定する場合、標準的な方法はバーチェックで決定します。

温度等により音速が変化しますので(寒冷時は音速は遅く、温暖時は速くなります)高精度の測深には設定が必要となります。

バーチェックの方法

通常バーチェックという作業は、チェックバー(40cmの円板/目盛ロープ20m付)を海底に向けて2m毎に降下させ、その時のチェックバーの水深値を記録紙上に表示させ、後処理の参考記録として用いるものです。

設定手順 (手動設定)

1. キーで画面表示します。
2. で**手動設定**を選択し**決定**します。
3. チェックバーを2m毎に降下させその値と合致するよう手動入力(1300m/sec~1599m/sec)で音速値を変更、決定します。
4. で音速値を選択、決定。
5.

<input type="button" value="←"/>	桁数を変更 (上位にシフト)	<input type="button" value="→"/>	(下位にシフト)
<input type="button" value="↓"/>	数値を変更 (減)	<input type="button" value="↑"/>	(増)

設定手順 (自動設定)

1. でバーチェック使用を選択します。
2. キーで反射板位置の値を設定します。
3. キーで決定します。
4. 決定後自動設定を開始します。計測結果の数値が確定するまで待ちます。
5. 計測結果の値が正常であれば キーで決定 やり直す場合は キーでチェックバーの位置を設定に戻せます。

自動設定方法

チェックバー位置を予め TDM-B II に入力しておいて、チェックバーをその値まで降下させ、設定値と合致した時点で を押します。そこでチェックバーの深さでの音速値が決定されます。

例) チェックバーの深さを予め決定しておきます。

反射板設定入力 1 2 m (TDM-B II 本体側) : 初期値は 0 5 m

チェックバーを 12m まで降下させます。目盛ロープで **水面下 1 2 m** を確認します。

確認後 キーを押すと 水面下 12m での音速値が得られます。

その得られた音速値で測定すると記録紙上 12m の位置にアナログ記録が印字されます。

注 1) チェックバーの位置決定の際反射がとぎれるような場合は、完全に反射記録がとれてから を押してください。反射がとぎれるような場合は使用できない場合がありますのでご注意ください。

8. 印字情報

初期設定 TDM-B II の印字情報内容：

印字情報設定： マーク印字する場合に記録紙上にどのような情報を記述するかを設定します。
出荷時設定は赤字部分です。

1. 罫線印字設定

ON OFF の設定は	→	←	で行います。	項目の設定は	↓	↑
計測開始線				ON		OFF
インターバル			ON			OFF
マークトリガー				ON		OFF
1 cm目盛線				ON		OFF
1 mm目盛線				ON		OFF
0 m 線				ON		OFF
深度トレース				ON		OFF

2. 文字印字設定

ON OFF の設定は ← → で行います。 項目の設定は ↓ ↑

1) 計測開始時 (ヘッダー：S)

電源投入時 印字開始の時に固定線が印字されます。そのときの印字情報です。

年月日	ON		OFF
時分秒	ON		OFF
※目盛		ON	OFF
縮尺値	ON		OFF
音速値	ON		OFF
※測深値	OFF	瞬時値	平0 平1 平2
*瞬間値 と 平(均值) 0 : 測深値を記録線の上に印字します。			
*平(均值) 1 と 平(均值) 2 : 測深値を記録線から*1 cmまたは*2 cm 離して印字します。記録線に重なりません。			

2) インターバルトリガー時 (ヘッダー：I)

自動固定線(マーク印字)を印字するときの印字情報です。OFF にするとその情報は抜けません。

年月日	ON		OFF
時分秒	ON		OFF
※目盛	上部 ON	OFF	中間 ON OFF 下部 ON OFF
縮尺値	ON		OFF
音速値	ON		OFF
※測深値	OFF	瞬時値	平0 平1 平2
*瞬間値 と 平(平均値) 0 : 測深値を記録線の上に印字します。			
*平(平均値) 1 と 平(平均値) 2 : 測深値を記録線から*1 cmまたは*2 cm 離して印字します。記録線に重なりません。			

3) マークトリガー時 (ヘッダー：M) (カットマークを印字する時の設定です。)

固定線を印字(マーク印字)するときの印字情報設定です。OFF にするとその情報は抜けません

年月日	ON		OFF
時分秒	ON		OFF
※目盛	上部 ON	OFF	中間 ON OFF 下部 ON OFF
縮尺値	ON		OFF
音速値	ON		OFF
※測深値	OFF	瞬時値	平0 平1 平2
*瞬間値 と 平(平均値) 0 : 測深値を記録線の上に印字します。			
*平(平均値) 1 と 平(平均値) 2 : 測深値を記録線から*1 cmまたは*2 cm 離して印字します。記録線に重なりません。			

4) 深度 シフト 縮尺変更時

年月日	ON	OFF			
時分秒	ON	OFF			
※目盛	上部 ON	OFF	中間 ON	OFF	下部 ON OFF
縮尺値	ON	OFF			
音速値	ON	OFF			
測深値	OFF	瞬時値	平0	平1	平2

*瞬間値 と 平(均值) 0 : 測深値を記録線の上に印字します。

*平(均值) 1 と 平(均值) 2 : 測深値を記録線から*1 cmまたは*2 cm 離して印字します。記録線に重なりません。

*一般的には「深度 シフト 縮尺変更時」に測深値の印字はしませんので、出荷時の設定は「OFF」になっています。

*目盛印字 上部 0m 中央部 1m~9m 下部 10m に分解して印字 それぞれで ON OFF 設定
例) 上部と下部をONの場合 0 10 が印字される。

*1cm *2cm という値は、記録紙上でアナログ記録とデジタル測深値の間隔を表しております。

縮尺 1/50 の場合 1cm は水深換算では 50cm

縮尺 1/100 の場合 1cm は水深換算では 1m

縮尺 1/200 の場合 1cm は水深換算では 2m

縮尺 1/500 の場合 1cm は水深換算では 5m ということとなります。



9. 本体の起動・運転

1. 起動

- ① 電源スイッチ（右側面）をONにすると、LCDに各情報表示が出ます。
- ② タイトル画面（移動）>バージョン表示（移動）>メニュー（静止）と切り替わります。
- ③ メニューの中から最適の測深手段を選択します。
□①手動 F1 □②自動（浅） F2 □③自動（深） F3
適正な測深手段を選択後（↑↓）、**決定**・**印字/開始** を押すと記録紙に印字記録を開始します。
- ④ 初期設定としては **縮尺 1/100** ①手動 になっております。反射記録が確認された時点で、自動シフトに変更したり、希望する縮尺に変更することも可能です。
- ⑤ 初期設定（①手動）の測深条件を変更したいときは、**設定**を押すと設定選択画面に移行しますので、変更したい項目を選択、変更してください。
初期設定の①手動を、②自動（浅）あるいは③自動（深）に変更したいときは**設定**を二度押してメニューに戻してから選択してください。
（メニューから ②自動（浅）または③自動（深）が選択可能）

注）TDM BII使用上の注意：

反射記録がどの深度であるかを必ず確認して作業開始してください。

例) 1.6M付近から測量を開始する場合

- ・①最初に手動シフトから測定する場合の操作（1/100 手動シフト）
電源投入>**印字開始**>範囲 0-10M では反射記録が得られない>**↓**で範囲を 8-18M に変更
>反射記録が得られる。> **深度シフト**を自動に設定（LED点灯）
>水深が 20M に変化しても自動シフトで追従して計測
*測量中に深度を見失った（記録線が印字されない）場合は、一旦**記録縮尺**を 1/500 に設定し直し、深度を確認（記録線が印字される）してから再測量して下さい。
各種設定を変更する場合の設定はすべてショートカットキーで変更可能です。

設定値（出荷時設定）

記録紙移動速度	60MM/分
音速値	1500M/秒
記録縮尺	1/100 (1/200)
インターバル（マーク自動印字）	00
不感帯	000 ×00 CM
日時設定	現在時刻で作動（国内時刻）
印字情報設定	罫線・文字 設定値（初期値）
シフト	手動（自動はスイッチ切り替え：LED点灯）

シフト切り替えは **シフト浅↑** **シフト深↓** を押すことで切り替わります。

その場合 どのレンジを使用しているか LCD モニタで確認出来ます。記録紙で確認する場合はマーク印字を押しますと記録紙上に印字されます。

自動シフトを使用する場合記録の範囲が切り替わるとその都度記録紙上にデータが印字されます。（印字内容は設定必要）

印字 開始/停止 を押すと、記録紙上に深度記録が開始します。再度押すと記録印字が停止します。

2. シフト

- ・自動/手動は **深度シフト** で操作します。

LED 点灯 自動

LED 消灯 手動

3. 記録縮尺

- ・1/50 1/100、1/200 1/500 のいずれを選択するかは、水深の変化の度合いで決定します。
- ・**ダムの測量的場合は地形が急激に変化しますので 1/200 または 1/500 での使用が便利です。**

4. 感度調整

- ・手動感度調整 ・自動感度調整
- ① 手動 ②、③ 自動 に設定されています

例) ①の場合 感度調整を手動から自動に変更したい場合

メニュー> ②自動(浅) ③自動(深) を選択

※①、②、③の詳細な設定値の内容は P17 参照

5. 取消

値を設定中に間違っ操作した場合、**取消** を押すと 1 ステップ前の状態に戻ります。

6. 保存

操作パネル上で設定した値は、主電源を切るとすべて初期値に戻ります。

設定した値で次の測量を続行したい場合は一度、既設定値を保存する必要があります。

保存 : データ書き込み終了。(LCD に書き込み表示有り。)

次回からは主電源を OFF/ON しても**保存**した設定値での動作となります。

(「出荷時に戻す」するとすべて初期値に戻ります。)

7. ズーム/水平方向

記録紙の早送りをを行います。

① 測深記録を印字している場合 測深記録が水平方向に拡大(ズーム)されます。

② 記録印字を停止している場合 記録紙が白紙のまま早送りされます。

※記録を再開する場合は **印字開始** を押します。

8. マーク

記録紙上に固定線(イベントマーク)を印字させるときに使用します。

マーク を押しますと、測深記録上に(固定線)が印字されます。

この場合に記録紙上には年月日、時分秒、縮尺値、音速値、計測値などの情報も印字されます。

どの情報をライン上に乗せるかは、印字情報設定で設定可能です。

外部機器からの入力でも固定線は印字可能です。(RS-232C 経由)

9. 設定値を保存する場合

作業時に確定した設定値を保存して終了する。

設定した値を新しく登録して保存する場合は(例: ①手動で測深条件を変更した時)

主電源を切る前に **保存** を押して書込終了を確認する。

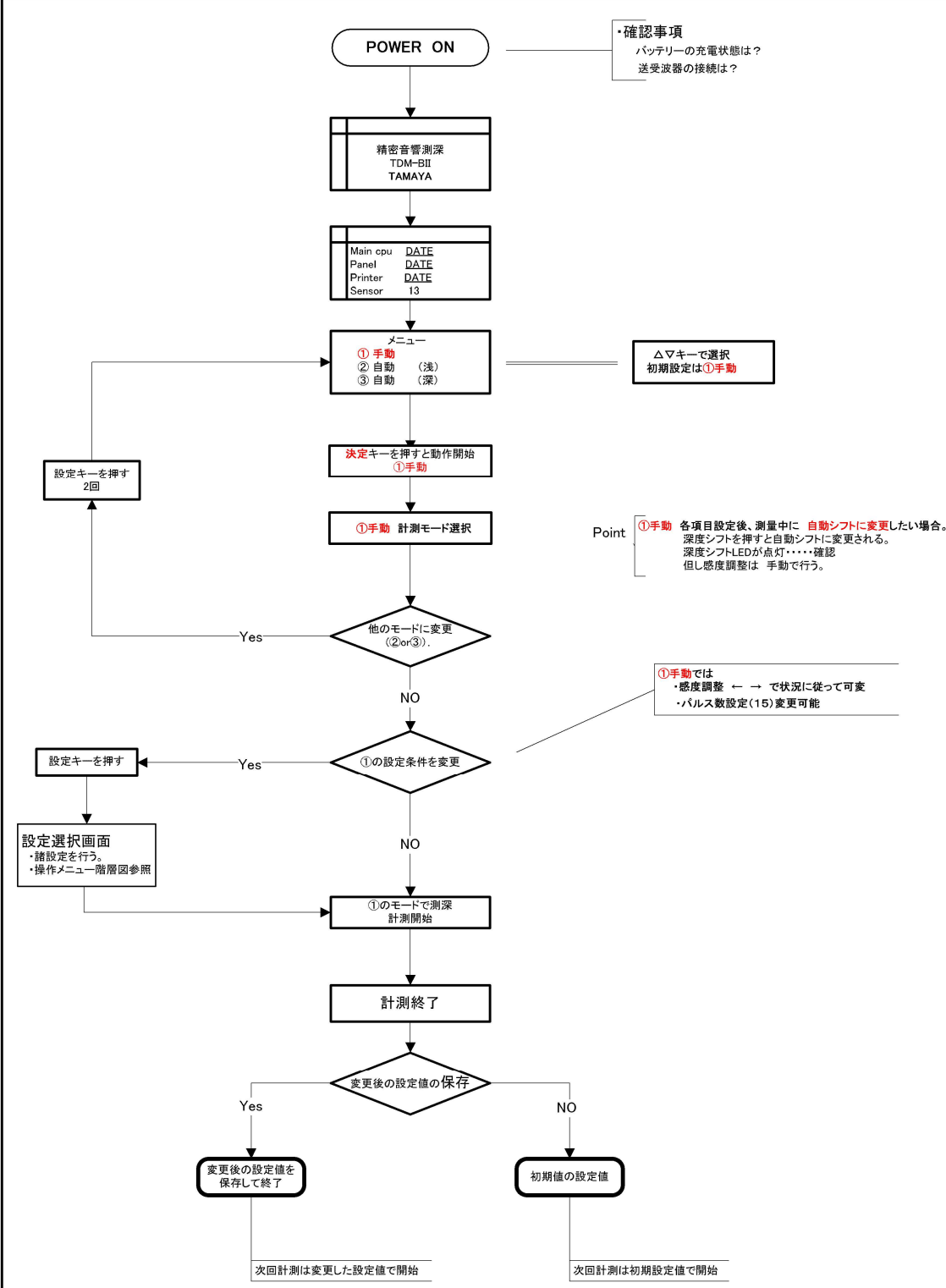
確認後、主電源を落とす。 f 1 として新規登録される。

新規設定した値(f1)を「保存」して終了した場合 次回の使用時には保存した f 1 の設定値で動作します。

初期値に変更したいときは「出荷時に戻す」を実行します。その場合は新規設定した内容が消え、出荷時設定に戻ります。新しい設定で保存する場合は御注意ください。

TDM-B II 起動～終了まで

メニューから①を選択した状態での説明です。
他のモード ②または③を選択しても流れは同様です。



TDM-B II の出荷時の一般的なファイル設定

TDM-B II 設定値内容

LCD表示画面



	①手動	②自動 (浅)	③自動 (深)
シフトモード	手動	自動	自動
縮尺	1/100	1/100	1/200
感度調整	手動	自動感度調整	自動感度調整
設定 不感帯	000×10cm	000×10cm	10×10cm
インターバル	00分00秒	00分00秒	00分00秒
発信パルス	15(可変可能)	(10)	(30)
印字情報 深度トレース	ON (+10mm)	ON (+10mm)	ON (+10mm)
文字 マークトリガ	測深値 (平1)	測深値 (平1)	測深値 (平1)
測定条件詳細設定			
シフト単位	80%	80%	80%
スレッショルド	50%	50%	50%
移動平均	4	4	4
探査ウインド	30/30	40/60	50/100
有効信号幅	手動	自動設定	自動設定
アッテネータ	80cm(可変可能)	自動設定	自動設定
自動化パラメータ			
受信感度	OFF	5%	12%
感度不感帯	OFF	±2%	±3%
発信パルス数	手動設定	自動設定(10)	自動設定(30)
有効信号幅	OFF	ON	ON
有効深度	6m	6m	6m
アッテネータ	OFF	ON	ON
広範囲スキャン	ON	ON	ON

10. 参考

1. 自動シフトと手動シフト 2. レンジとシフトとについて 3. 音速補正資料 4. RS232C

自動シフトと手動シフトについて

操作パネル上での識別 ・自動シフト (LED 点灯) ・手動シフト (LED 消灯)

・手動シフト メニュー画面：①手動

手動シフトで深度を探す：

操作：操作キー の ↑ ↓ を使用して測深箇所を探査します。

例) 16m 付近の測深を行う場合

↑ ↓ を使用して LCD 表示画面で 8—18m を選択します。

その結果 8—18m の範囲内だけの測深結果が表示され、記録紙上にはその測深記録が描かれます。

①手動で測量中に、自動シフトに切り替えて使用したい場合は、**深度シフト** を押すと自動シフトに切り替わりその後は自動シフトでの測深となります。

確認法： **深度シフト LED 表示が点灯**・・・自動シフト

・自動シフト メニュー画面：②自動(浅) ③自動(深)

0m から 30m の範囲を測定する場合のシフト変化は

①0—10m ②8—18m ③16—26m ④24—34m ⑤16—26m ⑥8—18m ⑦0—10m

という範囲で 10m 毎に自動的に切り替わります。(1/100)

切り替わる時には記録紙上に 0-10 8-18 16-26 24-34m—と数字で目盛が印字されます。

(デフォルト値は 80 に設定)

※自動シフトで シフト量を変えたい場合 (80%から 50%に変更する場合)

測深条件詳細設定のシフト単位設定で 50% 選択 **決定**

0-10m、5-15m、10-20m、15-25m・・・という範囲で 10m 毎に自動的に切り替わります。

切り替わる時に 0-10m、5-15m、10-20m、15-25m と記録紙上に数字で目盛が印字されます。(1/100) の場合

レンジとシフト

レンジ		シフト				
Scale	Range	PHASE				
1/50	0-5m	0-5m	4-9m	8-13m	12-17m	16-21m・・・
1/100	0-10m	0-10m	8-18m	16-26m	24-34m・・・	
1/200	0-20m	0-20m	16-36m	32-52m	48-68m・・・	
1/500	0-50m	0-50m	40-90m	80-130m・・・		

80%ずつシフトした場合の例

音速補正資料 温度と水中音速 (塩分濃度含む)

② \ ①	0ppt	5ppt	10ppt	15ppt	20ppt	25ppt	30ppt	35ppt	40ppt	①：塩分濃度 PPT ②：水温 °C
	0 °C	1400	1407	1414	1421	1481	1435	1442	1445	
5	1424	1431	1437	1444	1451	1457	1464	1470	1475	
10	1445	1452	1458	1464	1471	1477	1483	1490	1496	
15	1464	1470	1476	1482	1488	1495	1501	1507	1513	
20	1481	1487	1493	1498	1504	1510	1516	1521	1527	
25	1496	1502	1507	1513	1518	1523	1529	1534	1540	
30	1510	1515	1520	1525	1530	1535	1540	1546	1551	
35	1522	1526	1531	1536	1541	1546	1551	1555	1560	
40	1532	1537	1541	1546	1551	1555	1560	1564	1569	

水中音速 m/sec

出力形態		
DATA	8ビット
パリティ	NON
ストップビット	2
ボーレート	4800
送信間隔	スキャン同期
出力フォーマット	M00123C	カット時は C を出力
外部機器から CUT CRLF を RS232C で TDM-B II に送信すると 記録紙上に 固定線が (ヘッダーM) 印字されます。		

外部機器との接続の注意点

他社製 GPS 対応「深浅測量ソフト」を使用する場合は下記の通り設定してください。

「設定」「システム設定」「外部機器通信設定」「プロトコル 標準 (新)」

「プロトコル 標準 (旧)」 「決定」としてください。

「プロトコル 標準 (旧)」は「CH1 測深値」のみを出力します。

弊社製 TDC-9 シリーズ (A, AI, AG)を使用する場合は下記の通りとしてください。

「設定」「システム設定」「外部機器通信設定」「プロトコル 標準 (新)」で

使用して下さい。「プロトコル 標準 (新)」は出荷時設定となっております。

「時間」と「CH1 測深値」の2つのデータを出力します。

他社製 GPS 対応「深浅測量ソフト」を使用の場合は、使用前に外部機器通信設定をご確認ください。

SOKKIA製「G-POWER」をご使用の場合はG-POWERの「条件」－「測深機の設定」

で「タマヤ TDM-9000A」を選択の上、「通信設定」を下記の通り設定してください。

特に「フロー制御」が「なし」になっていないとカット線を入れるコマンドが送れませんので、ご注意ください。



よくある質問、疑問点について◇

■バーチェックについて

Q バーチェックを行うときに、どこを基準にするのか

A 通常は水面を基準にします。

従って2mの水深迄チェックバーをおろす場合は水面に2mの印がくることになります。

次に4m、6m、・・・の印を水面にあわせるということになります。

■音速補正について

Q 音速補正の自動、手動はどう違うのか？

A 手動で行う場合はチェックバーを降ろしながら音速値を手動で変更します。

例えばバーの深さを2mから4m降下させます。その時TDM-BⅡが4.12mを表示していたとした場合基準の音速値が1500m/secですから、音速値を凡そ1450m/sec位から変化させLED表示が4.00mになったら、その時の値が補正結果の音速値となります。

その後、同様に6m 8m・・・というように測定を繰り返します。

※ 音速補正は 水温が低い場合は1500m/secより少ない値になりますし、逆に水温が高い場合は1500m/secより大きい値になります。

設定> 音速> 手動設定> 決定> ↑で増加 ↓で減少 確定後 >計測

自動で行う場合 (例: 14mにチェックバーをおろしたときの場合。)

- ・ TDM-BⅡのLCD表示で反射板位置入力を14mに変更します。(デフォルトは05m)
- ・ チェックバーを14mまで降下させます。

- ・ TDM-BⅡの記録(アナログ、デジタルいずれも可)が確認出来たら、**決定**を押します。

決定で計測開始 適正な音速補正値を決定します。

(水面下14mはチェックバーの検査ロープで確認します。TDM-BⅡのLED表示器値は1500m/secでの計測値ですので水温の状態によっては14mと異なる値を示しますが**決定**を押すと自動で音速値を確定します)

- ・ 以後はこの音速値で測深を続けます。

■測深記録に関する疑問

Q 例えば記録紙では海底が5.6mあるのに、デジタル値が0.7m付近を表示する時がある。

A 原因としては、何点かが考えられますが下記が主な原因かと思われます。

- ・ 水面付近が濁っている場合。
- ・ 気泡が発生して音波が到達しない場合
- ・ 波浪の影響で表面が混濁している場合
- ・ 送受信部不良、送受波器の不良

TDM-BⅡでの操作(自動感度で対処する場合と手動で感度調整して対処場合があります)

- ・ 水深が急激に変化する場合(自動感度で対処する(かんたんメニューで③を選ぶ))
- ・ ・ ・ ・ 不感帯を設定して対応 ・ ・ ・ ・ ・

設定>不感帯設定(000×10cm) 濁り等の状況によって設定値を決定します。

ここで設定した範囲まではデジタル化されませんのでデジタル値は設定値より深い水深値になります。

- ・ 水深が比較的浅い場合(手動操作で対処する場合(かんたんメニューで①を選ぶ))
感度調整を自動から手動に変更します。

設定>かんたんメニュー>↑↓>①手動>決定

- ・ 感度調整 低 で操作

- ・ 発信パルス数設定が任意設定可能になります。設定法は下記の通りです

設定>発信パルス数設定> で減少 で増加

発信パルス数を変更する場合 20~30が適当ですが、適宜設定してください。

Q デジタル値がアナログ記録と異なる数値を示す場合がある。(実測は4mなのに8mと印字する)

A 多重反射が発生する時にこのような現象がおきる時があります。

セカンドエコーの強度が最初のエコーより確実に大きい時に発生します。

- ・ 対策としては、操作パネルの **印字 開始/停止** を繰り返すと復帰します。
- ・ 復帰しない場合は有効深度を小さくします。初期値 4m を 2m に変更

設定>測深条件詳細設定>自動化パラメータ設定>有効深度 4m>>

Q アナログ記録をデジタル化したときのモニターが記録紙上で出来ないか？

A 記録紙上では アナログ記録の深度トレース線でモニターが可能です。

設定>印字情報設定>罫線印字設定>深度トレース>ON> で +10 に設定。+10 に数値設定するとアナログ記録の+1m の位置に深度トレース線が描かれます。



TAMAYA

東京都品川区南大井 6-3-7 スリージェ南大井 7F

〒140-0013 phone 03-5764-5561 FAX 03-5764-5565

<http://www.tamaya-technics.com>

2013AUG